



府中一小だより

令和 7 年 9 月 5 日

第 6 号

府中市立府中第一小学校

校長 宮内 和夫

初心忘るべからず

校長 宮内 和夫

熱中症警戒アラートが連日発令された今年の夏休み。去年までの夏よりも明らかに違う暑さを感じていましたが、9月2日の新聞報道では「観測以来の暑さ。6～8月気温 平年より2.36度高く」の大きな文字が一面を飾っていました。2学期初日も朝からかなりの暑さでしたが、子供たちが元気に登校し、気持ちのよい挨拶を交わすことができたことをとてもうれしく思いました。

始業式では2つの話をしました。まずは「ありがとう」についてです。この夏に、府中市美術館で行われた2年生の消防写生会の表彰式。府中消防署長さんからの表彰の際に、表彰状をいただいた時に数人の子が「ありがとうございます」と声に出してお礼を言っていました。心の中で思うだけでなく、感謝の気持ちを言葉で相手に伝える姿は素晴らしいことだと思いました。(9月1日の登校時に「校長先生、表彰式に来てくれてありがとうございます」とお礼を言いに来た子もいました。)今の1、2年生には入学式の校長式辞で「ありがとう」と「ごめんなさい」を言える子になってほしいという話をしています。今回の表彰式の姿を見て、とてもうれしく思いました。始業式では「ぜひ、これからも“ありがとう”があふれる府中第一小学校になってほしい」との思いを伝えました。

続いて「初心忘るべからず」について子供たちに下記の話をしました。

- ・これから2学期の目標を立ててと思います。はじめに思った大切な気持ちを忘れないようにして、一緒によい学校をつくっていきましょう。
- ・6年生は卒業まであと半年ちょっと。「最高学年として学校をよりよくしたい」という4月の最初の思いをもち続けてほしい。
- ・5年生も、「次は自分たちが一小を引っ張るんだ」という初心を忘れずに、成長を。

全校児童およそ940名が静かに落ち着いて体育館での始業式に臨むことができていました。今週、校内でも静かに落ち着いて過ごすことができています。2学期の心と体の更なる成長が楽しみです。

「初心忘るべからず(しょしんわするべからず)」とは、能の大成者である世阿弥が『花鏡』で説いた言葉で、世阿弥の本来の教えは3つの初心を忘れないことだとされています。

- 【1. 是非初心を忘るべからず】まだ未熟だった頃の芸や経験を忘れず、その未熟さや苦労を今の自分の向上に役立てる。
- 【2. 時々の初心を忘るべからず】その年齢や段階で新しいことを始める際には、常に初心者としての未熟さや謙虚さがあることを受け入れ、学び続ける心構えをもつ。
- 【3. 老後の初心を忘るべからず】年齢を重ねても学ぶ意欲をもち、老齢期においても新たな気持ちで物事に挑戦する。

私たち大人も上記の3つの初心を忘れずに、子供たちの加速度的な成長とは、また違った成長ができるといいなと思いました。

8月30日(土)の午前中にPTA主催で「夏のお楽しみ会」が体育館で開催されました。多くの関係団体のご協力を得て、450名近くの子供たち(未就学児含む)が楽しい時間を過ごすことができました。始業式より一足早く子供たちの顔を見ることができて、私も楽しい時間を過ごせました。PTA会長の岡部様を始め、本部役員の皆様、関係された皆様、本当にありがとうございました。

